

子ども安心して学べる学校をめざして

NPO法人 学校安全全国ネットワーク 第1回総会と公開学習会

日時：2019年6月8日（土）

- ① 総会受付 11時45分
- ② 総会 12時～13時
- ③ 学習会受付 13時30分
- ④ 学習会 14時～17時

参加費

- ✪ 会員 700円
- 一般 1000円
- ✪ 会員学生 200円
- 学生 500円

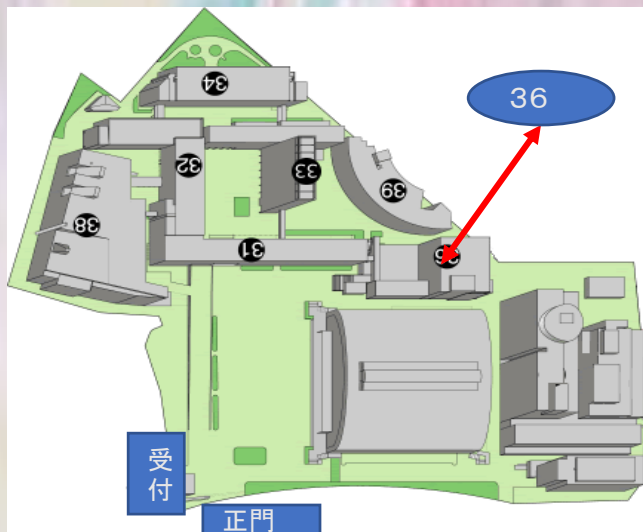
会場：早稲田大学文学学術院
36号館（エレベータ5階）581教室

テーマ


子どもたちは、体罰をどう受け止めてきたか

— 『若者対象の体罰意識・実態調査』を分析する—

- 調査趣旨・位置 喜多明人さん
(大学院調査委員会代表・早稲田大学教授)
- 調査結果報告 中川友生さん
(調査委員・早稲田大学大学院博士後期課程、
理学療法士＝神戸市総合療育センター技術職員)



連絡先

 NPO法人
学校安全全国ネットワーク

住所 〒102-0071
東京都千代田区富士見2-7-2
ステージビル1706号
南北法律事務所内

TEL 03-3511-5070
FAX 03-3511-5784

<http://gakouanzen-network.com>
E-mail uta@yoko-no-heya.jp

- ☆ 東京メトロ東西線
「早稲田駅」徒歩5分
- ☆ JR山手線・西武鉄道線
高田馬場駅から
早稲田正門前行バスで
「馬場下町」下車



公開学習会のお知らせ

子どもたちは、体罰をどう受け止めてきたか —『若者対象の体罰意識・実態調査』を分析する—

「先生、どうにかできませんか」

千葉県野田市の心愛（みあ・10歳）ちゃんの訴えもむなしく、彼女が書き込んだアンケート（コピー）は虐待している父親に手渡されるなどして、今年1月に虐待死という悲惨な結末となってしまいました。昨年3月の目黒区の結愛ちゃん（5歳）の虐待死に引き続いての事件でした。この間、子どもへの虐待の児相対応件数は、13万3400件にのぼり、急増しています。

これらの子どもたちの不幸な事件に対して、再発防止の世論が後押しし、今国会で、ようやく子どもへの親による体罰禁止の法制化（児童虐待防止法改正、東京都子供虐待防止条例）が進められています。しかし、法律で規制されたとしても、「しつけのために体罰はやむをえない」という体罰容認の意識は、6割近くにのぼっており（セイブ・ザ・チルドレン・ジャパン「体罰調査」2018年実施）、体罰・虐待の再発防止はこれからという状況です。

子どもに向けられた暴力（いじめ・体罰・暴言等）の問題解決には、解決主体である子ども自身がSOSを発するなど、権利侵害の救済を求めることが大切です。

では、子どもたちは体罰や虐待など暴力に対して、どう受け止めていたのでしょうか。

今回の「体罰意識・実態調査」は、養育者側の体罰意識・実態調査とセットになる「養育される側」（＝子ども側）の体罰意識実態調査です。とはいっても、子ども自身に調査することは困難であり、子ども期に最も近い存在である18歳～25歳の若者対象にして、今年1月、体罰意識・実態調査を行いました。

この調査結果は、子どもが安心して相談できる第三者機関のあり方や救済制度の改善にとっても有益な情報となると思います。ふるってご参加ください。

2019年4月10日

NPO法人 学校安全全国ネットワーク 代表 喜多 明人

記

日 時：2019年6月8日（土）午後2時～5時

会 場：早稲田大学文学学術院

36号館（エレベータ5階） 581教室

テーマ： 子どもたちは、体罰をどう受け止めてきたか
—『若者対象の体罰意識・実態調査』を分析する—

● 調査趣旨・位置 喜多明人さん
(大学院調査委員会代表・早稲田大学教授)

● 調査結果報告 中川友生さん
(調査委員・早稲田大学大学院博士後期課程、
理学療法士＝神戸市総合療育センター技術職員)

